

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2661200331		
法人名	社会福祉法人 宇治明星園		
事業所名	グループホームなごみの里伊勢田		
所在地	京都府宇治市伊勢田町毛語45番地		
自己評価作成日	平成23年6月1日	評価結果市町村受理日	平成23年8月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kohyo.kyoshakyu.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2671200331&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅凌町83番地1 ひと・まち交流館京都 1F		
訪問調査日	2011年6月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家改修型であり、家庭的な雰囲気をつつと庭の畑ではご入居者と一緒にご入居者と一緒に野菜を作りを行っており献立にも活用している。ご入居者が安心でき、ご自分らしさを存分に表現できる居場所となるよう心掛けています。定員6名という少人数であり、よりきめ細やかにをモットーにお一人お一人を知り、その方にあったケアで、その方の思いを引き出し、寄り添ったケアができるよう全職員で日々意見交換をし合い、認識を共有し常勤、非常勤の垣根なくチームケアに徹するよう関係作りにも励んでいます。「できない」と初めから決めつけるのではなくどうすればいいのか、まずはやってみようという中からヒントや工夫が生まれてきており職員のレベルアップにもつながっている。地域に根ざしていくために、地域の中に入って地域の行事や取り組みにも準備段階から参加し、地域住民とともに活動し交流を深めている。なごみカフェという喫茶も行い、地域の方々とのなじみの関係ができてきた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時には地域から反対があったが10年が経過し、法人の設立精神である「地域に根ざした施設づくり」が職員の努力で着実に展開されている。「なごみカフェ」をホームに設け、近隣住民が居場所のように、自作の野菜などを持ち訪ねている。小学生が学校帰りに立ち寄り、町の行事に誘われると入居者・職員とも、出向いている。管理者は地域からの要請に応え認知症ケアの話しにでかけ、地域とは馴染みの関係ができ、ホームが地域に支えられていることが実感できる。このホームの強みは、入居者を中心に職員間のチームワークの良さである。運営や入居者の情報の共有面でも、工夫と努力がされている。例えば、職員会議毎に全員で、入居者一人ひとりの思い、日常把握した客観的事実、気づきなどを書面にし事前に提示し会議に臨んでいる。会議での意見交換は盛んで、職員同士、気安く聞き話せる関係が築かれ、職員は「働きがい」を感じている。今後はホームの歴史を踏まえ入居者の重度化や、終末期に向けた取り組みが課題かと考えられる。関係者を交えた検討を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で意見を出し合い、わかりやすいものに作り変え(以前あった理念は説明事項として残しておく)パンフレットに明記しホーム内にも掲示。事務所にも掲示し職員の目にいつも入るようにして実践につなげられるにしている。	理念は、「一人ひとりの気持ちに寄り添い、心のお里になれますように・・・、みんなで築こう(気づこう)なごみの里」と、2011年度職員から沢山出された思いを整理し、わかりやすく、親しみやすいものにまとめている。日々の振り返りを大切にホーム内、パンフレットに掲示し実践に臨んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し地域の各種行事等にも準備段階から参加し、活動、交流を深めている。なごみカフェも定着しており、カフェを通じてなじみの関係も築けている。	開設段階では地域から反対の声が上がっていたが、今は、散歩などから顔見知りも多くなり、町内会の一員として町のイベントに企画段階から参加している。保育園・小学校との交流、中学生の体験学習も積極的に受けている。ホームの「なごみカフェ」には気軽にお茶を飲みに来る人が来られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に向けてではないが、宇治市認知症家族支援プログラムに参加し「グループホームでの認知症の人との関わりかた」という内容で講演をさせていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域との交流の一環になっており、そこで意見交換という場までには至っておらず、サービス向上にはつながっていない。	運営推進会議のメンバーは、家族、民生委員、包括支援センター職員である。「防災訓練」や「なごみカフェ」などに合わせ開催し、テーマによっては近隣に参加を呼掛けている。「防災訓練」に参加したメンバーから実態に即した意見や助言があり、気づきや改善につなげている。イベント情報の交換、入居者が昔の暮らしを話されるなど交流の場になることもある。	会議メンバーに町内会からの代表の参加を求めているが実現できていない。町内会には、当会議の理解を粘り強く訴え、参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	宇治市介護保険課の担当者とは日頃から連携をとっており、必要に応じて相談することもある。事業やサービスへの取り組みにも理解をいただいている。	市には会議の報告や広報紙を持ち訪ねている。市主催イベントの講師に招かれたり、市所管課主催の介護相談員・事業所の三者連絡会に参加し、関係機関との連携は図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年1回は勉強会を行い、周知徹底させている。玄関の施錠はしているが、ご入居者が容易に開けられるものである。また縁側から庭を経て外へも出ることも可能。	「身体拘束の禁止」は契約書などに明記している。今年のスローガンは、「開設10年目にあたり初心に帰り、相手に尊厳ある言葉づかいを意識しよう。」としている。入居者の重度化に伴い高圧的な言葉や、拒否的な言葉にならないよう、職員みんなで注意し合って実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底	毎年1回は勉強会を行い、周知徹底させている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的にはできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不明点がないよう努めている。また認識や理解不足がある場合は随時説明し、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の派遣事業、家族の会を年4回実施しており、そこで意見交換を行っている。また日々の関わりでご入居者やご家族の声をお聞きし、実現や改善につなげられるよう努めている。	家族会は開設当初、家族が主体的に集まり始められたが、現在は事業所が主催し年4回開催されている。家族の出席率はよい。家族から出される要望、例えば①職員の顔写真掲示、②定期通院に際しての協力要請など、職員会議で話し合い改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議前に全職員にアンケートに記入していただき、会議に出られない職員個々の意見をこぼさないようにしている。その意見は業務改善やケアの方法、事業計画にも反映している。	会議前には議題や検討する入居者を提示し、全員が意見や気づいたことを記入し会議に臨んでいる。会議は常勤・非常勤を問わず参加し意見は活発に交わされている。会議録は管理者がまとめ職員全員に回覧し業務、ケアに活かしている。更に朝礼、夕礼で申し送りをし細部まで情報が共有できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の得意とすることややりたいことを実践できるよう働きかけたり、労働時間はできる限り希望に添えられるよう努めているし、理解も得ている。昇給についてはなかなか難しいのが現状。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人1回は研修に参加してもらっている。研修後の報告会を兼ねた勉強会も開催し、全職員で共有している。また法人内で実践発表の場もあり、職員の意欲やモチベーション向上につながっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者にはあるが一般職員には交流などはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に事前面接を行い、現状把握に努めている。要望に応じて体験利用も実施可能であることを説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に事前面接を行い、現状把握に努めている。要望に応じて体験利用も実施可能であることを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に事前面接を行い、現状把握に努めている。要望に応じて体験利用も実施可能であることを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	中には介護されていることを感じてしまうご入居者もおられる。ご本人のことに手を出してしまわないよう、自らが主体的に生活していることを感じてもらえるよう自立支援に努め、立場が逆転しないよう注意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族の関係、ご家族の思いもそれぞれであり、共に支え合うという視点、またそういう理念であることも説明し理解はしていただいておりますが、ご家族によって協力は得られないこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同窓会に参加されたり、同級生や教え子、友人、親戚などが面会に来られたり、ご家族の思いによってそれぞれだが支援している。	入居者の希望で、出身校の女学校に出かけたり、茅葺の家に住んでいた話から、茅葺の里美山に皆で出かけている。教え子の来訪、長年畑仕事をしていた入居者の希望でホームの一角に畑を設け、収穫物を食卓にのせ、入居者の経験や、思い出を手がかりに支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりはこちらが介入せずとも自然と行っており、少し過度になっている場面では間に入ることもある。気が合う合わないがあっても当然だし、それを制止することも極力していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設等へ移られる場合は情報提供を行っている。同法人内での契約変更となった場合はご様子を見に行ったり、聞いたりしてご本人やご家族との関係構築の協力を努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でふとした瞬間に出てくることをこぼさないよう、また引出したりして個別ノートに書き留めるようにしている。それを生活の中に組み込めるよう努めている。	医療・基本情報の他、センター方式を部分的に使い生活面、生活歴、思いの情報が収集されている。昨年から日々の支援記録の他に、入居者の「個別ノート」を設け記録している。更に家族にもアンケートで要望なども聞いている。担当制は取ってないが、入居者を理解するための取り組みに工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族はもちろんこれまで受けておられたサービス事業者等から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを6か月に1回実施し、現状を全職員で共有し、ケアにつなげるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員からアンケートにより意見を出し合い、それを受けてサービス担当者会議を行っている。作成したものからご意見をいただき、必要に応じて変更することもある。	介護計画は「畑をやりたい」、「本屋に行きたい」など利用者の思いを反映した内容になっている。家族のサービス担当者会議への参加はないが面会時や、家族会に出た意見を計画に反映し、家族も納得している。記録は日々の「支援記録」、「個別ノート」、「サービス担当者会議録」があり、記録は介護計画の項目に沿って作成され、モニタリングの根拠になっている。介護計画、モニタリング共チームで取り組んでいる。	サービス担当者会議には極力家族の同席が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々関わった全職員が記録を行っている。その中でどこまで記録を読みこめているかに個人差はあるがケア方法や新たな発見などを皆で共有している。ケアプランの実施状況も記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の対応やご家族が動けない時も受診の送迎や付き添いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員には2カ月に1回訪問していただき、話相手やレクリエーションなど様々な活動をしていただいている。また地域の学区福祉委員会が主催する行事にも参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医受診時は日頃の様子をお手紙でお知らせしたり、必要に応じて受診に同行させていただくこともある。	かかりつけ医への受診は家族が同行しているが、家族の都合や、利用者の状況によっては職員が同行している。協力医院の内科・整形外科医の往診が月1回あり、認知症専門医、歯科医との連携も確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の他事業所より看護師を月1回程度訪問していただき、身体状況を看護師にチェックしていただき相談や必要に応じて処置等もしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は随時面会へ行き状況把握に努め、ご家族や病院関係者との情報交換を密にし、場合によってはカンファレンスにも参加し、退院後の混乱をできるだけ避けこれまでの生活がスムーズに送れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在ターミナルケアについての学習を深めているところであり、自事業所としてどこまでできるのか等を見極めながら、方針の整備に向けて現在検討中である。	ホームとして終末期に向けた方針は現段階では明確化できていない。家族から希望は出てきているが医師、看護師との24時間対応の目途が立っていないことが懸念材料になっている。先般入居者の突然の死を経験している。体調に留意を要する入居者もあり、職員間で対応を検討している段階である。	開設10年が経過するホームであるため、当該課題については近隣の同系列のホーム、家族、職員、地域医療関係者と検討を深めることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、周知徹底させている。平成22年7月には普通救命講習を事業所で開催（地域にも呼びかけ1名参加）し、職員に参加してもらった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施している。地域の方や民生委員さんにも訓練に参加していただいている。	消防署の協力を得て、夜間想定訓練を実施している。このことは運営推進委員会で報告し訓練に参加したメンバーと話し合っている。具体的な意見や助言があり、誘導面、介助面での課題が明確になっている。備蓄については準備中であるが、近隣との関係づくりは日常的に意識し取り組む努力がされている。	避難訓練は職員自身が体得できるよう定期的な取り組みを求めたい。ホームの前の通路は消防自動車、救急車が入れない。地元の協力については消防署や地元消防団に日頃から相談し課題の共有を図っておくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の状態や性格に合わせた言葉かけに努めているし、言葉かけが認知症ケアには欠かせないことであり、それによってご入居者も安心されたりなじみの関係が深くなっている。個人情報についてご家族より同意書を得ている。	居室は内側から鍵がかかる。ホーム内の写真、広報紙の写真の了解を入居者・家族から同意を得ている。現在、留意している点は入居者への言葉かけで今年度のスローガン「入居者の尊厳を考えた声かけ」を意識し、排泄、入浴など生活場面で留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らはできなくなっていることであり、こちらが意識して選択できる場面やご本人の思いをお聞きする場面を作ることを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課はなく、散歩へ行く方、家事仕事(調理や洗濯物等)をして下さる方、お部屋で過ごす方などそれぞれが思い思いに過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでの習慣としてしてこられたもの(特に化粧)は継続してできるよう支援している。訪問美容も行っている。夏祭りの盆踊りでは浴衣をお正月には着物を着ていただいたりしておしゃれを楽しんでいただけるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で育てた旬のもの、年中行事(お彼岸や節分の巻き寿司、土用の丑の日など)を大事にし、季節を感じられるように、献立を一緒に考えたりリクエストを聞いたりして実施している。	献立は入居者、職員で菜園の野菜も視野に入れ考えている。買物、調理にも入居者を誘っている。食事時はテレビが消され、懐かしい唱歌が静かにバックに流れている。入居者も時に口ずさんでみたり、ゆったりした雰囲気職員と共に、「美味しいなあ」と言葉を交わしながら食事をとっている。	献立はホーム独自に立てているが、時には法人本部の栄養士と連携し、カロリーや、献立上のアイデアなど意見交換の機会を望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事量は確認しているが、栄養バランスとしてのカロリー計算等を行っていない。栄養が吸収されにくく体重が軽い方には高カロリー飲料を飲んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて対応しているが、3名は必ず毎食後に口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中のオムツ使用者は1名、排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄を行っている。排泄後の後始末は直接的に介助している方が多い。	把握した排泄パターンをもとに、日中は「布パンツの方が、気持ちが良い」と一名を除き布パンツで過ごし、トイレへの声かけをしている。夜間もトイレに誘導したり、ポータブルトイレを使用するなど、自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤に頼らないように繊維質の食事や乳酸飲料の提供、運動、腹部マッサージ、ホットパック等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用したり、浴後のマッサージ等でリラックスしていただけるよう努めている。また安全に入浴できるよう浴室の環境整備も随時行っている。	入浴はマンツーマンで一人の職員が準備、服の選択、入浴介助、入浴後の水分補給、マッサージに至る支援をしている。入浴時はリラックスでき、ゆったりと話を聞く時間になるよう心がけている。入浴に抵抗ある人には入浴時間帯を柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠を確保するため(生活リズムの確立)日中の活動を基本とし、午睡の時間もその方の状態や希望に応じて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	不明な点はDrの指導を仰いだり、服薬表を作成しており、新しい薬が処方された場合はその効用や副作用等を確認し、記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでしてこられたこと(お習字、裁縫、生け花、園芸、畑仕事、歌など)を日常生活の中に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩にはほぼ毎日出掛けているし、季節の草花を見に行くことや個別外出としてご希望に添った外出など行っている。	散歩は近くの神社、保育園など近所を一巡することが多い。季節行事の花見、夏祭りや学校行事に出向き、入居者の思い出の茅葺きの家を訪ねる遠距離外出も盛り込み楽しんでいる。他に個々の入居者の思い出の場所に同行する等支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族やご本人の要望で所持していただいている方もある。買い物等で支払をしていただくこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お礼の電話や手紙などご本人と相談しながら行ったこともあるが、頻度としては少ない。母の日に家族から本人宛にメッセージのハガキを書いていただいた。重度化により字を書ける方が少なくなり、電話の対応も難しくなりつつある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特にリビングは生活の大半を過ごされる場所であり、四季の装飾や生け花等で季節を感じていただけるようにしている。またリビング窓(通学路)から子供さんの声が聞こえ、和室では足を伸ばせて落ち着ける空間となるよう環境整備している。	見慣れた広縁、床の間、違い棚がある広めの和室と、フローリングのリビングが共用空間になっている。共に緑の木々に囲まれ風通しも良い。テレビ、音楽の音、職員の音、声も騒がしすぎず、温度や湿度にも配慮されている。学校帰りに立ち寄る子供たちの声が一際大きく聞こえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ハード面には限界があり、居室以外には独りになれるようなスペースはないが、独りで過ごしておられるところへは邪魔しないよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたものを持ち込んでいただいたり、ご本人の思い出や大切にしておられる物等で落ち着ける空間となるようにしている。	居室部分は建て増しされたもので、天窓から柔らかな間接光が廊下に差し込んでいる。室内はこじんまりし、馴染みの家具が持ち込まれ、壁には写真や、色紙が掛けられ、窓から差し込む自然光で室内は明るい。布団や、衣替えは家族が季節毎に対応し室内は整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントにてそれぞれの能力を全職員で把握し支援している。ゴミが落ちていれば拾う方、花が枯れていたら水をやる方、洗濯物が乾いていたらたんで下さる方と、環境がその方のできることを引き出していることもある。		